

江州音頭だより

第 50 号

令和6年3月21日発行

滋賀県江州音頭普及会事務局 TEL 077-528-3743 / FAX 077-528-4877

〒520-8577 大津市京町四丁目1-1 (滋賀県観光振興局内)

ホームページはこちらから →



江州音頭フェスタに思う

江州音頭フェスタ in しが 2023
実行委員長 伊藤 耕造

令和5年度江州音頭フェスタを甲賀市の碧水ホールで開催した。250人余りの方が参加され盛り上げて頂いた。今回はコロナ明けでマスク無しでの実施となった。高齢化が進む中、ベテランの方々が江州音頭はこれだという意気込みで音頭を取られていたのが印象に残った。その反面、これは江州音頭から逸脱しているのではと思われる音頭が見受けられた。江州音頭の基礎を習っているのか、教えられているのか、修得しているのか、判断しがたい人がおられた様に思う。京都フェスティバル参加応募者の中には滋賀県代表として音頭を取る、これぞ滋賀の江州音頭という気構えが違う方が居るように思う。応募者の中から採点方式にて京都フェスティバル出演者8名を選出した。採点結果に色々疑問を感じる方もおられるが、疑問を感じるなら審査委員として参加して頂きたい(普及会員のみのみ)。今の所審査委員の数の制限はない。今後にはレベルの向上が必要ではなからうか、県外に出て口演するならばある程度のレベルが必要である。まず、江州音頭である祭文で錫杖を使いこなしているか、リズムが乱れていないか、掛け声と音頭が協調しているか、踊りにおいて何が大切か、踊り子の手足がスムーズに運べ



るかが一番大切である。普及会として、レベルの向上を図るには、各教室各派の指導者が責任を持って指導するべきである。県外で口演するには、音頭のレベルを無視では、滋賀の江州音頭が他県に認められないのではなからうか。若返りをするには明確な指針をだして若い人でも理解出来る様にしなければならぬ。私が私の推進では行く先が不安である。毎年大会が継続し、盛会に出来る様に協力して行きたい。

とつと江州音頭夏まつり

豊郷町江州音頭保存会
会長 藤野 恵津子

令和5年8月5日(土)午後6時から豊郷小学校旧校舎群におきまして、とつと江州音頭夏祭りが開催されました。新型コロナウイルス感染症の規制が緩和され、4年ぶりの開催となります。



伝統ある江州音頭は、盆踊りとして滋賀県内を中心に周辺地域において8月の行事として今日まで定着をしております。当日は発祥の地・豊郷町における江州音頭の歴史の説明があり、その後豊郷町江州音頭保存会の会員による音頭に合わせ、定番となった扇踊り・日傘踊りの披露。その後は来場者のみなさんと共に総踊りを行い、会場の輪が広がりました。

今年度は、東近江市の八日市江州音頭保存会の皆様にもご出演いただき、このイベントに華を添えていただくことができました。

この交流を通じて、今後の活動に大いに繋がっていきたいと思います。

その他、会場には浴衣や甚平を着て踊る姿が広く見られました。夏祭りの装いが高まる中、屋台ではフランクフルト、かき氷、スーパールールすくい等の縁日もあり、大人も子どもも夏の一夜を楽しく飾る、良いひとときとなりました。

活動報告

三代目真鍮家文好一門
小椋 祥行

新作音頭を作っています。

令和4年は聖徳太子が亡くなって1400年にあたり、湖東地区ゆかりの11社寺の江州音頭をつくりCDを発行し、各社寺の写真を取り、PCに入れ、PP(パワーポイント)に取り入れ、音頭を貼りつけた。その後新作音頭の依頼があり、市辺歴史と万葉ロマン、池庄浪漫、狼の長者、浅井長政、お多賀音頭等を作成しDVDやPP(パワーポイント)で写真に音頭を貼りつけ、老人ホームやふれあいサロン等で披露しています。

江州音頭会館では毎月第一日曜日には座敷音頭を聴く会を開催しています。また、新人の3人にも教えているので、6年後半には初舞台が踏める様に特訓をしています。



活動報告

守山江州音頭保存会
近江富士正龍(中村 正和)

昨年5月のコロナ5類引下げにより行動規制が無くなり、随分と暮らしやすさを感じられるようになりました。コロナ以前の日常に戻りつつあることを実感しております。

昨年の「江州音頭フェスタ」もステージの上ではマスクを外し思いきり音頭が取れました。今年の夏も鉦や太鼓のリズムのつて1つの輪から2つ3つと大きな輪を作り、老いも若きもヤグラの上の音頭取りの人達と一つになって踊ります。そして、あちこちの老人ホームや地域の盆踊り、又ボランティア活動にと積極的に参加しております。只今私達会員は古き文化(物語)に民衆の感動を呼ぶ詩を模索し、踊りで街の活性化を図り輪が生まれることを希望しつつ、新曲「守山自慢」を発表しました。

♪アさてはこの場の皆様へ
朝日輝く守山は東に三上山
西比叡二つの霊山に見守られ
滋賀の守山ここにあり♪
から始まり

♪花の守山を歌われて
春は桜の笠原で
夏はアジサイ芦刈園か
秋はコスモス渚の浜辺
冬は湖畔の寒咲菜花後に
見ゆるは比良の山頂き
美しき雪化粧
冷い風が吹きさむ

比良の八講荒れじまい
もうすぐ春の訪れか♪

只今会員一同練習に励んでいます。守山市文化協会の中の事業に「伝統文化子ども教室」があり、そこからも発信する予定です。近年低迷がちな江州音頭に何とか新しい息吹を吹きこもうと思案の今日この頃です。江州音頭が親しみのある淡海文化として継承され、より一層の発展を願って今年も仲間と共に元気の湧く江州音頭「踊り手を楽しませる」「踊り手に育ててもらおう」を合言葉に古き良きものに目をむけて伝承していくことが私達の努めだと思えます。

江州音頭ネタツアー(鳥根県安来市)

龍神家一門会
櫻川花山(立花 守)

令和5年10月21日〜22日1泊2日のネタツアーに行ってきました。

今回は異色なネタツアーを開催しました。尼子一族戦国尼子フェスタに江州音頭で盛り上げてはとのオファーがあり参加しました。驚いたのは全国の尼子一族が鎧兜で身を固め、大人子供の武者姿で練り歩き、エイエイオーと鬨の声を上げ、素晴らしいパフォーマンスを披露してくれました。今でも一族の血が脈々と受け継がれているのだと感動しました。



交流パーティー83名の会場で江州音頭を披露しますと沢山の人が懐かしさを覚えました。聞けば実家が滋賀県で「子供ころからよく踊ったわね」と楽しそうに話してくれました。役員様からはとても盛り上がり良かったと感謝の言葉を頂きました。やはり色んなイベントに参加すれば江州音頭の普及に繋がるなど実感しました。

尼子氏一族全国大会に
江州音頭ネタツアーで参加

滋賀県江州音頭協会 木村 晴夫

第8回尼子一族全国大会が令和5年10月21日(日)鳥根県安来市、夢ランドしらさぎで開催の連絡があり江州音頭普及の為、江州音頭ネタツアーとして披露出来ないか事務局に問い合わせまして交渉の結果、尼子一族歓迎レセプション約100名の会場で披露する事になりました。参加者を募り江州音頭協会の会員及び尼子一族会会員26名で参加することが出来ました。会場到着後、尼子一族集會總會、記念撮影、歓迎レセプションがあり、江州音頭披露は、音頭取り囃子、太鼓、鐘を準備し、衣装も和服、ハッピも数枚持参し、思い存分披露する事ができました。



翌日は、歴史ウォーク、武者行列等もあり、楽しい思い出を作る事が出来ました。これからも、この様に各地のイベントに参加して、江州音頭普及活動を続けて行こうと思えます。

盆おどり復活

昇山会
高田 としよ

彼女は「同じ顔が来てくれた。うれしい。よかったわ。」と終えた私達を労ってくれました。名古屋滋賀県人会の総会にて昇山会は音頭を取らせていただきました。師匠不在の為、真鍮家一門の助っ人を得て無事終えました。

私が踊り子として初めて名古屋に行ったのは二十数年前、彼女は若くてきれいでどなたにも声を掛け華やかさを持った人でした。踊り子一人ひとりにもお礼の言葉を頂いたのを覚えてます。12年前、新米の私が5分ほど音頭を取っている時、客席の男性が握手を求めて下さり、その後踊りの輪の中に入られました。その輪の中には浴衣に着替えた彼女もいました。いつも、盛り上げ隊です。

令和5年5月コロナ禍も緩和され、以前の賑やかさも戻りつつあります。盛大に取り行われた名古屋の総会は久しぶりのお顔拝見となり、楽しい時間となり盛り上がりました。長いお付き合いに感謝します。

昇山会は師匠不在の中、教えを守り16ヶ所のお声掛けを頂き精一杯勤めさせて頂きました。関わってくださった皆様は厚くお礼申し上げます。

南山城村の納涼祭

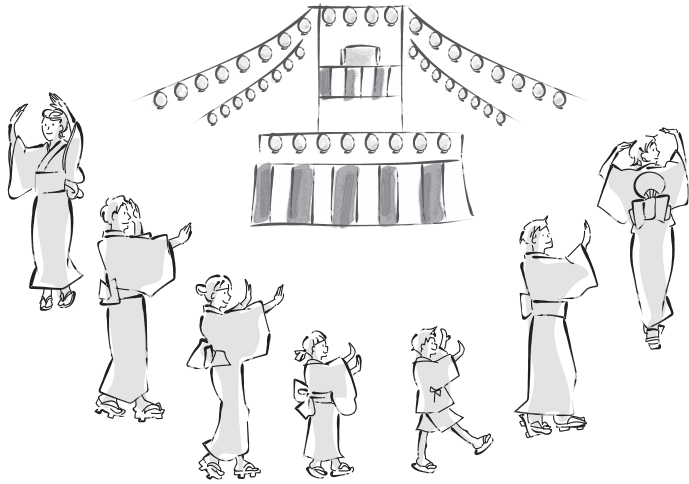
よし乃屋
桜川隆月(松本隆)

残暑厳しい9月17日に京都府南部の南山城村で村おこし関連の納涼祭盆踊りに招待された。参加のきっかけは、大阪天王寺界限で福祉関係のボランティア活動をしている会(国立会)の人と江州音頭で知り合ったのが縁である。しかし、当地は茨木から、はるか遠く三重県と奈良県、滋賀県の県境に接した大層な山間部だった。会場は地域コミュニティセンターの広場で、一つ挟んだ横は地区の野菜販売所があつて木津川のほとりであつた。会場の中央には小ぶりの櫓が設けられ、周りには本部席の他、簡易休憩ベンチとそれらを囲みキッチンカーが数台並んでいた。安心して休憩や飲食ができた。お茶の名産地でもあり、農協の展示販売のテントも見た。大きな盆踊り会場に比べ質素であつたが、なかなかまとまつていた。盆踊りは少し涼しくなつた16時半ごろから始まつた。太鼓の演奏、ジャグリング、民謡の披露などの他、踊り子さんもそこそこに地元の音頭踊り、ドンパン節、斎太郎節そしてギターと篠笛入りの河内音頭と江州音頭など多彩であつた。しかし江州音頭へ私の出番が回つてきた途端、夕立となりよいところを出

せずじまいで千秋楽となつてしまった。遠い道のりを来ただけに少々残念!しかし、おおむね成功したと思われる。

盆踊り会場に若い踊り子さんを集めるには江州音頭だけでなく、河内音頭、少なくとも炭坑節やドンパン節を入れたいと思う。私も今年7会場のうち4箇所江州音頭の他に炭坑節、河内音頭及びダンシングヒーローを、それぞれ生歌で取り入れた。盛り上がった。我々音頭取りも最低二芸を目指す必要があるかも!頑張ろう!

※ご当地はその昔、聖武天皇が平城京から東国へ行幸したとき、南山城村(山背国)を通つたかもと想像した。なかなか由緒ある地域だったようである。



芸処浪速の地で 江州・座敷音頭を披露

江州音頭又丸会 会主
四代目 桜川 又丸(北脇 強志)

私ども又丸会と二代目櫻川好玉師ならびに、三世櫻川好文師と貝祭文の宗家・二代目櫻川雛山師とタイアップさせていただき滋賀県流座敷音頭の元祖【貝祭文音頭】を、大阪は泉江州音頭の音頭師「なみは家ごろく」師匠の計らいで昨年、一昨年と口演をさせていただきました。

当初、お客さんが入るのか否か、聞いていただけるのかは別としてなかなか、貝祭文、座敷音頭とはどう云うものか、ご理解いただけるのか等々。若干、不安な気持ちは否めませんでした。近年、四世櫻川好文師、志賀國天寿師一門が大阪で座敷音頭大会と銘を打ち、好評を博しておられると聞いてはおりましたが、滋賀県流独特の節使用での「貝祭文」となるといささかクエスチョンでございました。

ご存じの通り、芸処大阪には数十人規模の収容可能なライブハウス等が多く点在し若手芸人さんらに稽古場、道場、ライブ会場として提供されている。その中で「百年長屋」「花福座」と云う座長さんら私どもの滋賀県流「貝祭文」に興味を示され、開催の運びとなりました。公演後、ある意味コアな

お客さんとの質疑応答では江州音頭芸の神髄に迫るご質問には只々驚きでございました。

幸い我が江州の東近江にある音頭会館で「東近江市江州音頭保存会」の方々を中心となり座敷音頭の復活を模索する機運が高まり頑張っていたと思っています。とお聞きして頼もしく思っています。滋賀の音頭取りは、踊り音頭と座敷音頭が取れて初めて一人前と云わないまでも、過つて我らの先人には座敷音頭の名手は数多おられました。リベンジを願う音頭取りにとつて誠に喜ばしい限りで感謝しかありません。精進を重ねられ、江州音頭芸の発展を乞い願ひ、互いに切磋琢磨しようではございませんか。



活動報告

滋賀県立大学 湖風祭実行委員会
成田 悟

私たち滋賀県立大学湖風祭実行委員会は、毎年6月に開催される大学祭「湖風夏祭(うみかぜなつまつり)」、11月に開催される大学祭「湖風祭(こふうさい)」の企画・運営を中心に活動し、地域や他団体様のイベントへの参加も積極的に取り組んでいます。

2023年11月4日(土)5日(日)には、第29回湖風祭を開催致しました。本年度は新型コロナウイルス感染症防止対策のための入場制限・マスク着用の義務を大きく緩和し、昨年を上回る盛り上がりで、模擬店の出店数は40を超え、フリーマーケットにも200ブース以上が出店し、ほとんどに行列が出来る程でした。

来年度の湖風夏祭においても江州音頭協会の皆様と一緒に江州音頭を踊らせて頂き、さらに大学祭を活性化できればと思っております。

我々湖風祭実行委員は、より魅力的な大学祭を運営できるよう努めて参りますので、お力添えをお願い致します。



とよさとオータムフェスティバルにて

豊郷町江州音頭保存会
加藤 恵美子

どん帳が上がりました。

舞台の上にはピンク系の着物を着た踊り子と、グリーン系の着物の音頭取りさん。この日が仕立て下ろしの着物のお披露目です。はんなりした色の着物の上には「江州音頭発祥の地」の染め抜きが鮮やかです。



豊郷の江州音頭は日傘や扇を回すため、踊り手どうしにある程度の間隔を必要とするため、全員が一つの舞台で踊れません。一組目が舞台で踊り、途中で踊りながら舞台から客席へ。二組目はその一組目と交差するように舞台へ出ていき踊ります。そして、二組目が舞台から客席へ移る頃に、音頭はクライマックスに入ります。そうすると音頭は千秋楽。伊勢音頭のメロディーに乗り、客席に向かって一列に並んだ踊り手の右手には開いた扇が右に左に弧を描きます。「ソラヨイトセー」の時、全員の扇は胸の前でピタリと止まり、お客様に向かって真つすぐ伸びます。華やかな音頭はこれで幕を下ろしました。

新人音頭取りさんにも
記事を書いていたいただきました!



懐かし、楽し、江州音頭
只今、心と身体と、
ついでに頭(?)のりハビリ中!

龍神家一門会 藤田 孝子

令和4年梅花の季節、次月からの入院と手術を控え、桜を見られない代わりにと、大石の梅まつりに行きました。コロナ禍、おまつりやイベントは久しぶり無かったのに、ラッキー♡と思いきや、何と、江州音頭が聞こえてきました。もう、ずいっと以前に、地元の盆おどりが無くなつて以来本当に久しぶりでした。子どもの頃に見聞きしたしゃがれ声の音頭取り、個性的な踊り、若かりし頃には青年団で踊りまくったつけ。懐かしさと楽しさで夢中になって踊ると手術の不安が消え、勇気がわいてきました。

1年後、仕事をセーブして出来た時間に、何か趣味を見つけたいなあと思っていたら、これまた知人から江州音頭の話聞き、それから、どっぶり、どはまり、怒涛のような令和5年の江州音頭 Summer盆 Danceでした。

音頭を覚えると嬉しい!今までの人生、嬉しい。踊ると楽しい!今までの人生、自分なりに、多少は頑張っていた。これからは、江州音頭を、目え(母音を強く!笑) いっぱい楽しみたいデス!! 目標はちよっぴりながら自覚してきたけれど、ここに書くのはおこがましい。内緒、内緒。



江州音頭だより50号を記念して

江州音頭所感

伝承江州音頭千壽會 櫻山宗家
六代目 櫻山寅丸(藤野 喜史郎)

昨年はコロナ禍もおさまり、各地でちらほらと江州音頭が催され、私は6ヶ所の夏祭りに出演させて頂きました。今年は、従来通り多くの夏祭りが開催される事を期待しています。江州音頭と私の出会いは、物心ついた頃に父親の音頭を聞き、覚え、父親のまねをしていました。私の村には玄人裸足の音頭取りさんが沢山おられました。私の父親もその内の一人でした。私はその縁で十九歳の時に、豊郷町千壽寺の舞台上上がる事が出来ました。是が、私のプロになりたいと思った原点であります。二十三歳の時に八日市市(東近江市)妙法寺町の三代目桜川捨丸師匠の門をたたき入門し手解きを受けました。音頭上達を図る為に日夜稽古に励みました。さて江州音頭を向上するためにはどうしたらよいか、何かヒントがないか江州音頭だ

よりを拝読させて頂きました。私が思うには音頭の基本というものは各派師匠の節がありますので一概には言えませんが、共通するところは「掛り」「祭文」をしつかり押し「落し」は最後までしつかり読むことです。昔私の師匠は(声を大きくだし、腹の底から出せ)とよく叱られました。又、「口先で音頭を取るな」とも云われました。師匠の教えを忠実に守って一生懸命に稽古して来たことで今日の私があります。まだまだ未熟であります。厳しい教えでありましたが今思うと師匠の有難味がわかってきた今日この頃です。私にも弟子ができた今日この頃です。私にも弟子ができた今日この頃です。二十代から三十代までの間に習うのが良いのではと思う。何故かと申しますと若い時の声は伸びしろがあり「こぶし」がよく廻るからです。歳を取って音頭の上達を望む方は、世間一般に評判が良い師匠について教えて頂いたらどうでしょうか。

今年の滋賀フェスタは6月23日(日)彦根で開催する事となりました。一生懸命務めさせて頂きますので、ご支援ご協力を御願致します。



江州音頭について

東近江江州音頭普及愛好会
理事 丁野 永正

標記のテーマにて、私の江州音頭観(感)を述べます。

昨年満80才になった私のような世代には、江州音頭は人生におけるなつかしい思い出である。

しかし、これ思い出に終わらせないため、数年前から江州音頭の復活・普及の活動をしている。その理由は、私の生誕地である現東近江八日市地域が、江州音頭の歌の部門の発祥地であるからだ。周知のとおり、江州音頭は、江戸末期に生まれた歌と踊りの地域芸能であり、犬上郡豊郷の千樹寺に始まる念仏踊りが盆踊りとなり、この踊りに八日市発祥の祭文音頭が結び付き、櫻川流と真鍮家流の二大流派に発展していった。以後、明治・大正・昭和にかけて庶民の大衆娯楽として大いに楽しまれたのだが、平成・令和になり勢いが失われてしまった。しかし、幸い音頭部門については、各流派音頭師の皆さんが地道な努力で伝統を守り抜いている。そこで、何とか新しいスタイルで江州音頭を復活させたいと、立ち上げたのが「東近江江州音頭普及愛好

会」である。この会の目的は、単なる盆踊りの復活ではなく、芸能ショーとしての江州音頭の展開である。楽しむのは唄う人と踊る人だけではなく、観る人も大いにワクワクしてもらえらる江州音頭ショーである。例えば一昨年、聖徳太子の1400年忌祭が全国で催されたとき、わが東近江地域では太子ゆかりの社寺にある、それぞれの縁起ばなしを音頭仕立てに作詞し、これを地域で披露したところ、大いに好評であった。また、湖国の戦国ロマン「浅井氏三代」の物語を音頭化したところ、地元で喜ばれたし、永源寺の「木地師音頭」や日野の「氏郷音頭」も、観る人、踊る人共どもに楽しんでもらえる。さらに、県内各小学校の校歌を音頭仕立てにして、子供たちに江州音頭への興味を持たせることも行っている。そして、今や超高齢化時代、健康で長生きのために江州音頭は何よりの健康体操にもなるため、高齢者の集いに踊りを普及させてゆきたいと考える。



子ども向け 江州音頭教室情報

各団体では、主に小学生・中学生向けに江州音頭教室を開催しています！
各学校への出張教室も行っていますので、お気軽にお問い合わせください。



大津江州音頭保存会

教室名: 江州音頭 大津駅前教室
講師: 桜川 伯山
対象: 小学生
場所: 大津市役所 逢坂支所
とき: 第4金曜日 16:00～
受講料: 無料
連絡先: 090-8146-9818
 担当/松本

三代目 真鍮家文好一門

教室名: 親子江州音頭教室
講師: 小椋 祥行・梅本 努・竹岡 虎道
 萩原 好夫・花本 久嗣
対象: 小学生・中学生
場所: 東近江 江州音頭会館
とき: 日曜日(月2回) 14:00～16:00
受講料: 無料
連絡先: 050-5801-1169 担当/小椋
備考: 令和5年7月～令和6年2月迄
 (終了後希望者を指導します。)

豊郷町江州音頭保存会

教室名: 江州音頭子ども教室
講師: 藤野 恵津子・竹川 富美子
 上田 栄子・金谷 星美
対象: 小学生・中学生
場所: 豊栄のさと
とき: 毎月第3金曜日 19:30～
受講料: 無料
連絡先: 0749-35-8010 (事務局)
 担当/豊栄のさと 社会教育課・後藤

令和4年度滋賀県江州音頭普及会事業収支精算書

(収 入) 単位:円

区 分	当初予算額	精 算 額	増 減	摘 要
県補助金	1,900,000	1,900,000	0	県観光振興局補助金
会費収入	250,000	169,000	△ 81,000	@1,000×169人
協力金等	14,800	12,000	△ 2,800	CD等の売上 @1,000円×12枚
繰越金	235,194	235,194	0	
雑入	6	5	△ 1	預金利子等
計	2,400,000	2,316,199	△ 83,801	

(支 出) 単位:円

区 分	予算額	精 算 額	増 減	摘 要	
1 情報発信事業費	800,000	570,794	△ 229,206	江州音頭だより発行2回 (94,050円、99,000円) 江州音頭フェスタinしが (377,744円)	
2 県内・県外普及活動 参加団体等への助成	450,000	450,000	0		
3 江州音頭盆踊り 大会の開催	1,000,000	1,000,000	0		
4 運営費	会議費	40,000	42,330	2,330	
	事務費	10,000	14,620	4,620	うち振込手数料 6,430円
	通信費	100,000	29,380	△ 70,620	
	予備費	0	0	0	
繰越費	0	209,075	209,075		
計	2,400,000	2,316,199	△ 83,801		

江州音頭だより 第50号 編集委員

伊藤 耕造/木村 晴夫/佐野 公治/高田 としよ/竹岡 虎通
 立花 守/田村 義子/中島 憲逸/西村 清子/藤田 孝子
 松本 敦三/横山 葉子(五十音順)

編集後記

会員の皆様から活動報告など、たくさんのお便りをいただきありがとうございました。紙面作成にあたり、いただいたお便りの表現を編集部で変更させていただいたことをご詫言申し上げます。
 引き続き、会員の皆様方の活動報告や近況など、原稿を事務局までどしどしお寄せください。あて先は下記までお願いいたします。

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1-1 県庁観光振興局内
滋賀県江州音頭普及会事務局
 TEL 077-528-3743 / FAX 077-528-4877

錫杖



販売しています

- 令和の時代に作られた逸品と桜川雛山師匠お墨付き
- 一本10万円(どちらとも)
- 色は2色(ゴールド・つや消し)
黒檀の柄も(細・太)の2種類
- 1本はご存知〇サの錫杖を型取りして作ったものです。
- お気軽に(なみは家ごろく)まで、ご連絡下さい。
090-1962-5706

みんなと一緒に楽しく踊りましょう!

開催決定!! 江州音頭フェスタ

どなたでもご参加いただけます!

inしが 2024



日時: 令和6年 **6月23日(日)**
13:00 開演(予定)

場所: **HIKONE**プロシードアリーナ
 彦根市小泉町640番地



※上履きを必ずお持ちください。